

## 第13回アジア会計学会 年次大会

The 13<sup>th</sup> Annual Conference of Asian Academic Accounting Association

H24会人02

開催日 平成24年11月9日～平成24年11月12日(4日間)  
開催地 京都大学 経営管理大学院・京都ブライトンホテル他  
申請者 京都大学 経営管理大学院 院長 徳 賀 芳 弘

### 会議の概要と成果

#### 1. 概要

京都大学経営管理大学院の主催で2012年11月9日～11月12日に第13回アジア会計学会年次大会(AAAA京都大会)を京都大学吉田キャンパスで開催した。アジア会計学会は、1999年の第1回年次大会以降、毎年1回開催されており、例年、20数か国から150人を超える会計学者、公認会計士、政府関係者などが参加し、アジア諸国が共通に抱える会計問題について幅広く議論を行っている。

#### 2. 実施内容成果

AAAA京都大会は、24か国から230人の参加登録があり、以下の要領で開催された。

大会1日目(11/9)に国際的な学会で活躍する6名の講師をお迎えし、ドクトラルコロキウム(Doctoral Colloquium)を開催した。そこでは、研究テーマの発見方法、分析手法、そして研究戦略など研究者志望の大学院生が博士論文や研究論文を執筆する際に有益な講義が行われ、講師と参加者の間で活潑な議論が展開された。ドクトラルコロキウムには、アジア諸国より30名の大学院生が出席した。

大会2日目(11月10日)以降に、100件の口頭発表が行われた。その内訳は、招待講演3件、

パラレル・セッション82件、そしてPhDセッション15件である。まず、3名の研究者と実務家をお招きし、最新の研究成果と会計実務について報告をお願いした。招待講演の報告者と報告タイトルは、次の通りである。Philip Brown教授(University of New South Wales, Australia)「Corporate Governance and Transparency」、浅田英治氏(KCCS マネジメントコンサルティング)「Introduction to Amoeba Management System」、佐藤倫正教授(愛知学院大学・AAAA第3代会長)「Possibility of New Accounting Model for Stakeholder Capitalism」である。また、パラレル・セッションとPhDセッションでは、財務会計、国際会計、監査、管理会計、税務会計、資本市場、会計史、環境会計、政府会計、病院会計といった多様な研究分野の発表が行われ、報告者、司会者(討論者)、そして参加者(フロアー)間で活潑な議論が展開された。

AAAA京都大会では、上記の口頭発表に加えて、大会3日目(11/11)の午後に国際シンポジウム「The Responses to IFRS in Asian Countries」を開催し、アジア諸国の国際会計基準(IFRS)への対応方法とその課題について議論を行った。国際シンポジウムは、次の2部から構成される。まず、企業会計基準委員会の西川郁生委員長(慶應義塾大学教授併任)より

「IFRS Developments in Japan and Asia」と題して、日本の会計基準の国際的コンバージェンスへの取り組みと問題点について発表していた。その後、トルコ、インド、韓国、および台湾より、各国の会計基準設定やその動向に精通した会計学者を招聘し、各国の会計基準の現状と国際会計基準への対応を巡る諸問題について報告をお願いした。各報告者と報告タイトルは、Prof. Chi-Chun Liu (National Taiwan University, Taiwan)「Taiwan's Perspective on Challenges and Issues in Implementing IFRS's」、Dr. Manju Jaiswall (Indian Institute of Management Calcutta, India)「Response to IFRS-Case of India」、Prof. Recep Pekdemir (Istanbul University, Turkey)「Position State-

ment of Implementing International Standards in the Turkish Accountancy」、そしてProf. Jong-soo Han (Ewha Womans University, Korea)「IFRS Adoption and Implementation of Korea」である。各発表者からの報告後、平松一夫教授(関西学院大学)をモデレーターとして、報告者、モデレーター、そしてフロアー間で活潑な議論が展開された。

### 3. まとめ

多くの方々のご支援によりAAAA京都大会を無事開催することができました。最後に本大会の開催にご援助をいただきました村田学術振興財団に心より厚く御礼申し上げます。